

虎倒流骨法術（サンプル）

1 歴史等

歴史は、玉虎流骨指術に同じである。また、基本の体変術、拳の使い方、蹴りのやり方も一部を除き、ほとんど同じである。細部は玉虎流最後の記事を読んでください。また、技の中で拳とか蹴りとあるのはいろいろな拳を使えの意味です。

2 虎倒流骨法術^{くらいどり}位取（位取りとは、地形地物・天候気象等を考え、敵と対立した時の我の体の構や位置のことである。大変重要なものである。）

- ・ 右正眼の構 相手方と対立、両足を割って腰を落とし右手刀をまっすぐに左手手刀を右肩につける構え。
我は、右手の先を相手の目につけ、我が意思をもって相手を意のままにする構えでえ、相手の目を見つめる。
- ・ 左正眼の構 相手方と対立、両足を割って腰を落とし左手刀をまっすぐに右手手刀を左肩につける構え。
我は、左手先を 以下右正眼に同じ。
- ・ 平一文字の構 直立に立ちて両手を横に真っ直ぐに、両手とも手刀にして一の字の構えなり。
我は、柔らかく大きく相手を包み込むような心構えで相手の目を見つめる。
- ・ 抱^{ほうこ}圀の構 腰を落とし両手を手刀にて、顔面よりやや高く上げ両足を割って飛び込む姿勢で構えるなり。
我は、相手の攻撃に対しどこから来ても跳ね返すあるいは、抱え潰す強い心構えで相手の目を見つめる。
- ・ 防備の構 直立し、右手刀前方に、左不動拳は腰に当てる構えなり。
我は、相手の攻撃に対し、前方の手で払いのけ腰に当てた拳で相手を打ち破る心構えで相手の目を見つめる。

以下省略...